

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料(平成30年2月)

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。
噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況(図1、図2 -)
大分県監視カメラによる観測では、1日に伽藍岳で噴気が稜線上100mまで上がりましたが、それ以外の日には噴気は認められませんでした(1月:なし)。
- ・地震や微動の発生状況(図2 -)
火山性地震の月回数は2回(1月:3回)と少ない状態でした。これらの火山性地震の震源は求まりませんでした。
火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。
- ・地殻変動の状況(図3、図4)
GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の様子(大分県監視カメラによる)

<2月の状況>

大分県監視カメラによる観測では、1日に伽藍岳で噴気が稜線上100mまで上がりました。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>)や気象庁ホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成30年3月分)は平成30年4月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。

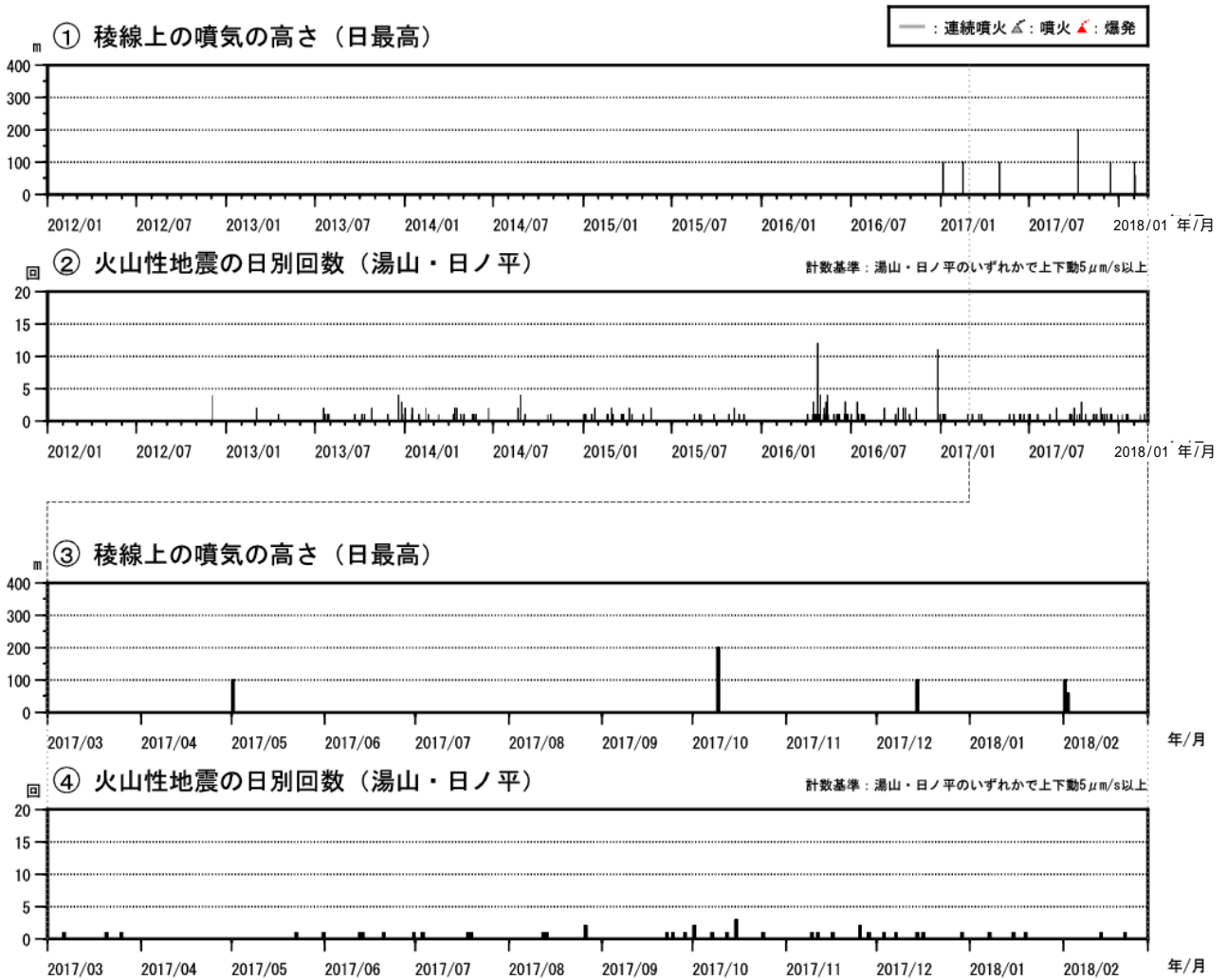


図 2 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図（2012 年 1 月～2018 年 2 月）

< 2 月の状況 >

- ・ 1 日に伽藍岳で噴気が稜線上 100m まで上がりました（1 月：なし）。
- ・ 火山性地震の月回数は 2 回（1 月：3 回）と少ない状態でした。
- ・ 火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

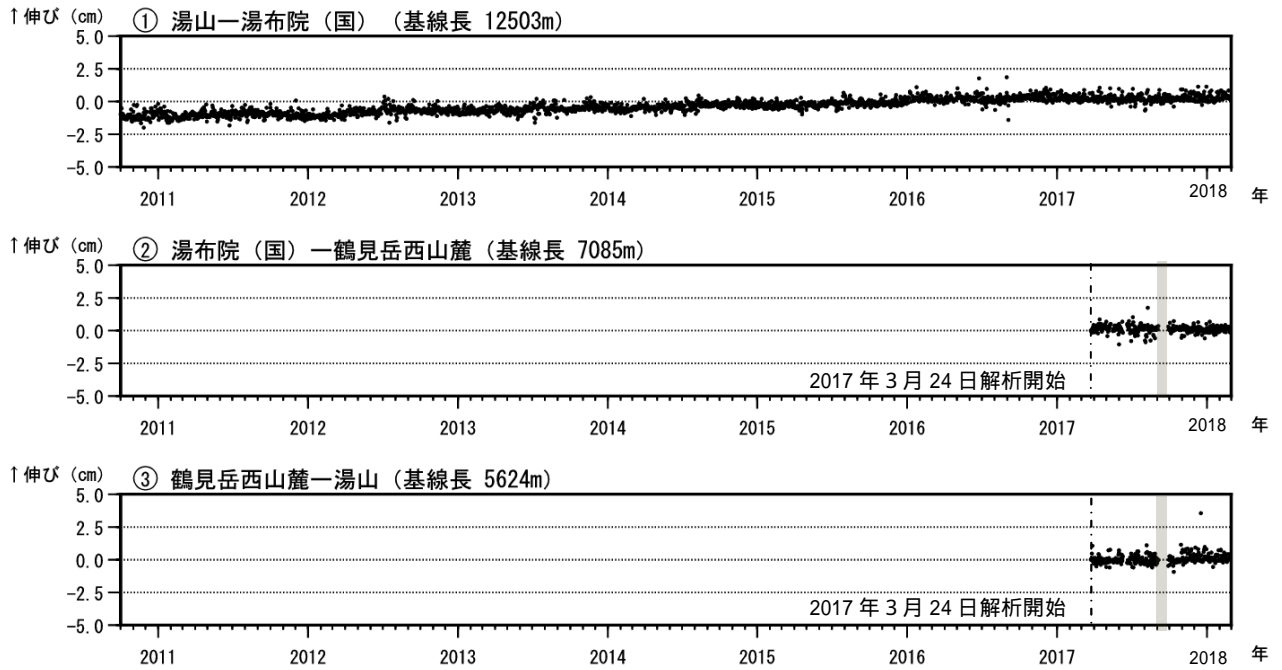


図 3 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2018年2月）
 GNSS連続観測では、火山活動によって考えられる特段の変化は認められませんでした。
 この基線は図4の ~ に対応しています。
 灰色部分は観測点障害による欠測を表しています。
 2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
 2016年4月16日以降の基線長は、平成28年（2016年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。
 （国）：国土地理院

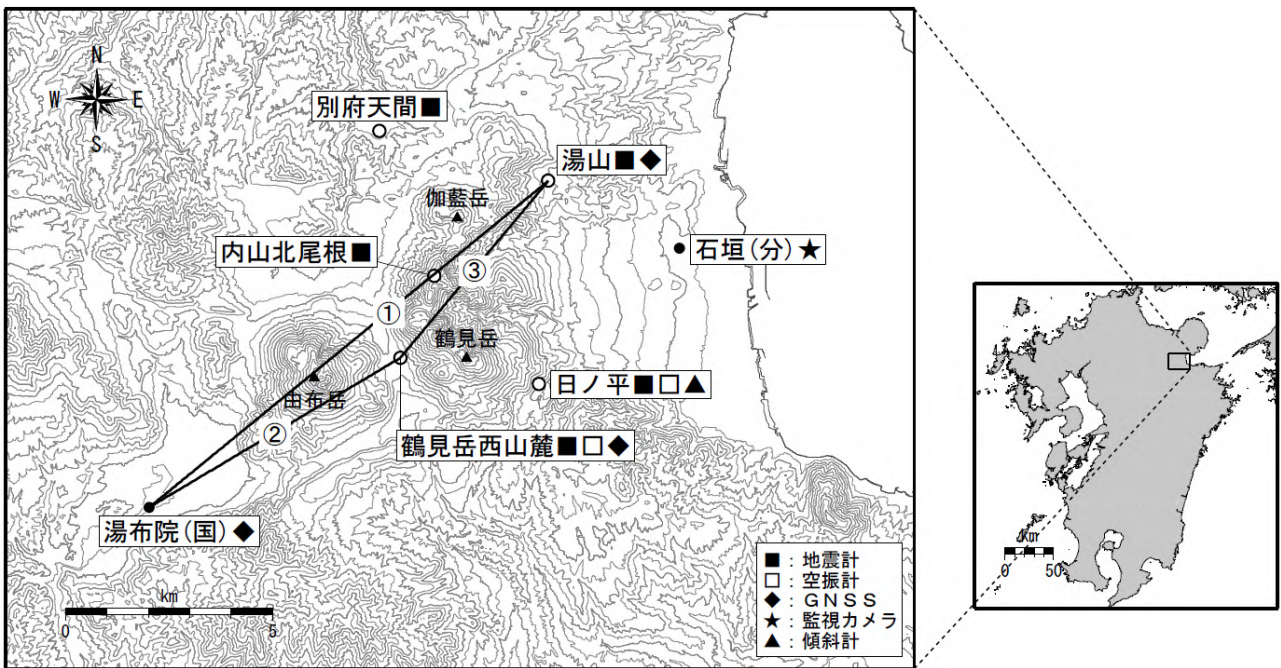


図 4 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図と GNSS 連続観測による基線番号
 小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（分）：大分県
 「石垣（分）」は大分県監視カメラを示しています。